

GRADE guidelines: 7. Rating the quality of evidence – inconsistency

Gordon H. Guyatt, Andrew D. Oxman, Regina Kunz, James Woodcock, Jan Brozek, Mark Helfand, Pablo Alonso-Coello, Paul Glasziou, Roman Jaeschke, Elie A. Akl, Susan Norris, Gunn Vist, Philipp Dahm, Vijay K. Shukla, Julian Higgins, Yngve Falck-Ytter, Holger J. Schünemann, The GRADE Working Group

【日本語訳】
GRADE ガイドライン: 7. エビデンスの質評価 - 非一貫性
抄録

本稿は、2値アウトカムにおける(絶対的というよりはむしろ)相対的な治療効果の非一貫性について取り上げる。複数の研究から一貫した結果が導かれても総体エビデンスの質の評価が上がることはないが、非一貫性があれば質の評価が下がる場合がある。一貫性の評価基準には、点推定値の類似性、信頼区間の重なり程度、異質性検定やI²を含む統計学的基準が含まれる。異質性を調べるには、システマティック・レビューの著者らは患者、介入、アウトカム、方法論に関わる少数の事前仮説を立てて検証する必要がある。非一貫性が大きく、なおかつ説明が付かない場合、特に一部の研究が相当な利益を示唆しているのに対し、他の研究が効果なしや害を示唆している場合には(単に大きな効果対小さな効果というよりはむしろ)、非一貫性を理由に質の評価を下げるのが適切である。

見かけ上のサブグループ効果には偽りがある場合がある。サブグループ効果が特定の方向性を持つ少数の事前仮説に基づく場合、サブグループ比較が研究間ではなく研究内から導かれたものである場合、交互作用の検定から低いP値が得られた場合、生物学的根拠がある場合には、信頼性が高まる。

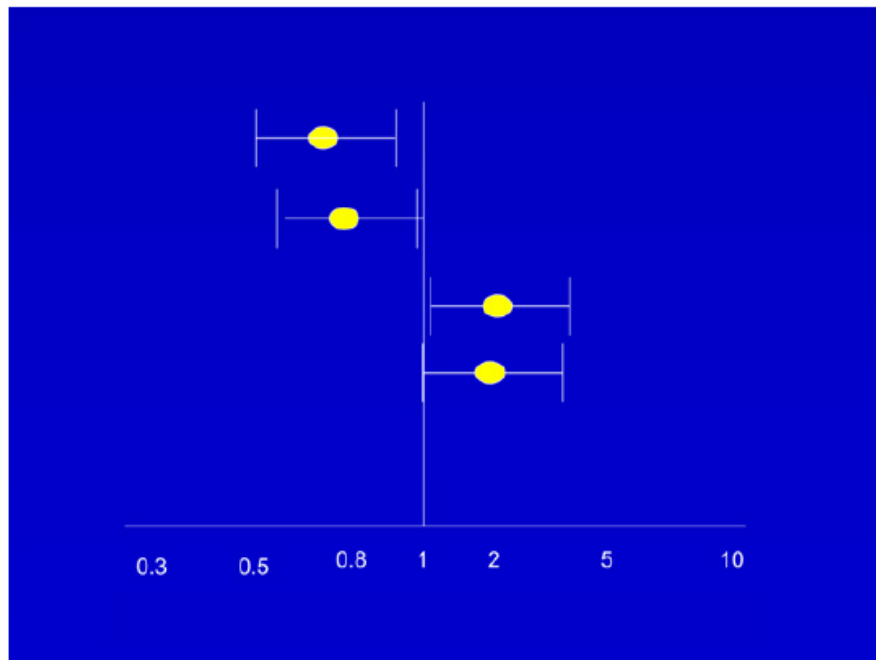


Fig. 3. Substantial heterogeneity, of unequivocal importance.